

巻頭言

ウェルビーイングを 自分たちで高める働き方

前神 有里 (一財 地域活性化センターフェロー・
人材育成プロデューサー)



労働者協同組合法施行2年目にして、「労働者協同組合知ってるよ」という人に出会うようになってきた。人は力いっぱい訴えられることよりも、ふとしたきっかけで知ったことが耳に残るのかもしれない。それは、たまにしか会わないくらいの人と何となくつながっていると、自分の知らなかったことがふと入ってくる感覚に似ている。

先日、二人の女性から相談を受けた。いま、それぞれが個人事業で公的制度外の家事代行や通院付き添いなど幅広く生活支援をしているが、一人でできることには限界があるので、法人化も検討しながら仲間を募りもう少し活動の幅を広げていきたいという内容だった。労働者協同組合の話をする、先に相談に行った男女共同参画センターで紹介されたという。まだ事例が少なく、詳しいことはよくわからなかったが、自分たちの望む働き方を叶えてくれる可能性を感じたので、詳しく知りたいと思っていたところに私を紹介されたそうだ。

地域には、やりたいことを実践している人はたくさんいる。その実践がプロボノ的活動に収まっている間はいいが、やりたいことが増えてきたり、それを仕事にしようとしたりすると、どうやって業

として成り立たせるかが悩ましい。一人で全部考えるのは難しいし勇気がある。そんなときに、ともに考え動く人がいると、やっていることやできることは違っても、やれることが広がり一人ではできなかったことができるようになるという新しい価値が生まれる。自分たちで資金を出し合い、話し合いで働き方を決め、ともに働くという仕組みの労働者協同組合は、仕事の創発を生みやすい働き方だ。

行政に頼らず地域のことは地域でと言われるようになって久しく、住民自治の必要性が唱えられてきたが、地域住民をピラミッド型に組織化するやり方では役割分担を中心とした「しなければならぬ(have to)」の動きになり、住民の思いは反映されにくい。自治とは自分たちのことを自主的に行うことであるのに、ピラミッド型ではやらされている感が強くなってしまう。自分たちで出資し、話し合い、働くという協同労働の仕組みは「したい(want to)」や「望む(hope to)」ことを実践していくチーム型自治の動きに近いのではないだろうか。

不安定で流動的で曖昧で多層性のある社会では、一丸となるとか一致団結という強固なつながりよりも、ウィークタイズ(ゆるやかなつながり、弱い絆)でウェ

ルビーイング(いい状態)を高めようという動きが各所で注目される。シュンペーターが新結合という言葉で説明したイノベーションとは、新しくするという意味のラテン語で、既存の価値や考え方を壊し新たなものを創造するという事なので、同質性の高いところにはイノベーションは生まれにくい。組織は同質性が高くなりやすく、強い立場の意見や大きな声が物事を決めてしまっても、自分には仕方のないことと諦めてしまうとイノベーションとは程遠い環境になってしまうが、協同労働の原則は、働くという自治を体現しながら、自分にとってのウェルビーイングが高まるだけでなく、誰かとウェルビーイングを創り合うというところにイノベーションを生む可能性を感じる。

自分のウェルビーイングは何かを考えるだけで、ウェルビーイングに一步近づくそうだ。家庭や仕事の充実だけでなく、地域社会とつながるとウェルビーイングな人生を得やすく、地域にはウェルビーイングを満たす要素がふんだんにある。様々なかたちで地域にかかわることで、人のつながりだけでなく、チャレンジする機会や達成感を得られる。先日、運転免許を返納した70代の女性が、膝が痛く自転車にも乗れなくなり日常の移動に不便を感じていたところ、市民講座で出会った若い人が話題にしていた「いいもの」を知って助かったと教えてくれた。何を見つけたのかと思ったら、なんと電動キックボードのことで、早速購入したところ立ったまま乗れるので快適だと喜

んでいた。高齢者に電動キックボードなど選択肢にないという思い込みがあると、この女性のウェルビーイングは高まらなかったように、新しいことを聞いたとき、いつもの常識で、「あり得ない」とか「くだらない」と判断してしまうと、過去の延長の未来しか想像できない。いつもの思考パターンを手放すことが大事なのだ。

人口減少対策である地方創生の取組が始まって10年、何が変わっただろうか。最初は、縮小させないために数を増やすことを指標にする取組が目立ったが、次第に拡大の反対は縮小ではなく質の充実ではないかと発想を転換し、価値観をアップデートすることで新たな価値を創造し、幸福度(ウェルビーイング)を成果指標にする取組へと変わっていている。未来は年齢に関係なく誰もが未経験なものであり、答えを知らないことであるので、これからも大いに夢や希望を語っていこう。

.....
<プロフィール> まえがみ ゆり

2018年に愛媛県庁退職。在職中は、協働自治による行革、地域包括ケア・虐待防止、地域づくり等に携わる。現在は、流しのコミュニティナースとして活動するほか、課題解決思考から価値創造思考への転換やあいだをつなぐ人財育成を行っている。地域活性化伝道師(内閣府)、地域力創造アドバイザー(総務省)。
.....